

2025年3月19日

令和6年度 スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会

事業総括と今後の日本の高等教育国際化について



黒田一雄

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授



〔 事業の目的 〕

真の国際化へ

国際競争力
の向上

国際通用性
の向上

「国際」をキーワードにした改革

徹底した国際化の取組

「国際」をキーワードにした改革

徹底した教育改革の取組

国際化推進への各体制の整備

ガバナンス体制

教育体制

「徹底した『大学改革』と『国際化』を断行し、我が国の高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図り、優れた能力を持つ人材を育成する環境基盤を整備する」（スーパーグローバル大学創生支援事業概要資料より）

SGU必須指標の分析 顕著な改善が見られた指標

		指標	2013年度		2022年度 もしくは最新年	増加数/増加率	
【国際化関連】	多 様 性	教員に占める外国人および外国学位 取得教員数	12,401人	→	16,382人	3,981人	1.3
		日本人学生の留学経験者の数	16,077人	→	29,035人	12,958人	1.8
		外国人留学生の数	49,608人	→	82,835人	33,227人	1.7
	語 学 力 関 係	外国語による授業科目数	19,533科目	→	54,455科目	34,922 科目	2.8
		外国語で卒業できるコース数	652コース	→	1,147コース	495コース	1.8
		外国語力基準を満たす学生数	78,262人	→	155,945人	77,683人	2.0
【ガバナンス改革 関連】		年俸制適用教員数	7,676人	→	19,135人	11,459人	2.5
		外国語力基準を満たす専任職員数	2,080人	→	5,234人	3,154人	2.5
【教育の改革的 取組関連】		ナンバリング実施状況	23,939科目	→	225,700科目	201,761 科目	9.4
		シラバスの英語化の状況	37,560科目	→	233,976科目	196,416 科目	6.2
		TOEFL等外部試験の入試への活用	7,360人	→	33,912人	26,552人	4.6

SGU必須指標の分析 SGU 非採択校との比較

		指標	タイプA	タイプB	非採択校
【国際化関連】	多 様 性	教員に占める外国人専任教員割合	7.8%	10.7%	4.0%
		全学生に占める外国人留学生割合	9.9%	5.9%	3.0%
		日本人学生の1年以上の長期留学生数（2019年度実績）	1,427人 <u>SGU37大学が日本全体の74%を占める</u>		<u>497人</u>
	性 流 動	大学間協定受入外国人学生割合	6.1%	5.0%	3.3%
		外国語による授業科目割合	21.0%	15.8%	3.3%
	語 学 力 関 係	外国語で卒業できる課程設置割合	32.3%	28.8%	5.4%
		学生外国語力基準の設定割合	<u>100%</u>		<u>6.7%</u>
		混住型学生宿舍	<u>100%</u>		27.5%
	【ガバナンス改革関連】	教員に対する年俸制適用大学割合	<u>100%</u>		39.3%
		職員の外国語力基準の設定割合	<u>100%</u>		<u>1.9%</u>
【教育の 改革的取組関連】		シラバスの英語化科目割合	60.2%	75.6%	<u>9.7%</u>
		外部英語試験学部入試利用割合	53.8%	41.2%	26.7%

SGU採択校に対するアンケート ①

(1) SGUを通じて顕著に成果・効果があった事項

- 多様なジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー等の**国際共同教育プログラムの設置**
- 質の伴ったコチュテルを活用した国際的な共同研究指導体制の構築
- 奨学金制度の創出やアカデミックアドバイザー制度等による**留学支援環境の整備**
- 多文化環境を活かした**外国人留学生との協働・共修環境やカリキュラム等の創出**
- 地域の自治体・企業との連携による**大学がハブとなった地域社会の国際化**
- 大学間交流を超えた総合的・互惠的な**海外大学とのパートナーシップ構築**
- 国際共同教育プログラムから、**国際共同研究**への発展
- 国際共著論文数の増加**による国際的評価向上に向けた取組
- 大学の社会貢献を評価する仕組み（THEインパクトランキング※）をベンチマークとした取組

※国連の持続可能な開発目標・SDGsに掲げられた17の目標の枠組みを用いて、研究、管理責任、アウトリーチ（現場における実践）、教育という4つの分野から大学の取り組みを評価し、ランク付けするもの

引用元：スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）の検証まとめ
<https://www.jsps.go.jp/j-sgu/kensyo.html>

SGU採択校に対するアンケート ②

(2) SGUの取組を通じて生じた新たな課題

【教育関連】

- 日本人学生の英語運用能力不足、育成の課題
- 対面／オンラインそれぞれの利点を活かした教育環境
- オンライン教育の質の保証のためのCOIL教育の推進
- ジョイント・ディグリー設置負担の課題

【学生交流・留学生の定着、支援の充実】

- 日本人学生が留学を躊躇する環境（就職活動等）
- 英語で卒業できるコースが増えたことによる課題
 - ・留学生の就職難（日本語力、日本企業採用要件・慣行）
 - ・留学生の諸キャリア支援の必要性（日本語教育、インターンシップ含む）
 - ・留学生サポートの負担、専門スタッフの不足
 - ・英語を母語としない教員・学生双方の2言語対負担
- 優秀な外国籍人材（卒業生）の国内企業への定着化 ○留学生の定員管理

【SGUの継承性、ブランド力維持、横展開】

- 事業成果の横展開（大学の国際化促進フォーラムの必要性和現状の課題）
- SGUのブランドの継続性、事業継承性の課題

【環境整備・ガバナンス】

- 奨学金の充実 ○日本人学生と外国人留学生の共学環境
- 国際通用性を見据えた教職員の採用と研修 他

SGUの成果と課題（個人的まとめ）

- ❁ 国際化を中心としながらも総合的な大学改革を志向し、一定の成果
- ❁ 指標設定による総合的な大学改革の実証実験は、説明責任のある政策実施枠組みとして大きな可能性を示すことができた。しかし、数字のみを追求する姿勢の顕在化や、理念や人材観の欠如・忘却・乖離などの課題も残した。
 - 指標設定と個別大学の理念・イニシアチブのバランスは当初から志向されたが、それを有効に審査・評価できたかは、プログラム委員会・審査・評価部会としても反省しなければならない。
 - 国際化の意義・理念の重要性
- ❁ 教育の国際化とその質の向上に大きなインパクト。一方、日本の研究力の相対的低下に対するインパクトは限定的だった。
 - もともとSGUにとって、国際化による研究力向上はスコープの中心になかったが、採択校の一部では独自に模索された。

- ❖ 教育/研究の質向上のための大学国際化
- ❖ 頭脳獲得のための大学国際化
- ❖ 収益確保のための大学国際化
- ❖ ブランド戦略・ランクマーケット対応としての大学国際化
- ❖ 国際理解・信頼醸成・平和の達成のための大学国際化
- ❖ 世界的課題解決を目指した人材育成・研究のための大学国際化

(Knight 2008, 江渕1997, Marginson 2006)

東アジアの主要大学が重視している国際化の目標

Significance of expected outcomes for overall cross-border activities in East Asia

Rank	Past		Present		Future	
	Expected outcome	Mean	Expected outcome	Mean	Expected outcome	Mean
1	To improve the quality of education (A-I)	2.59	To improve international visibility and reputation of your university (P-I)	3.23	To improve international visibility and reputation of your university (P-I)	3.78
2	To promote national culture and values (P-N)	2.54	To improve the quality of education (A-I)	3.19	To improve the quality of education (A-I)	3.78
3	To achieve research excellence (A-I)	2.39	To achieve research excellence (A-I)	3.17	To achieve research excellence (A-I)	3.78
4	To improve international visibility and reputation of your university (P-I)	2.39	To promote intercultural/ international awareness and understanding (A-N)	3.13	To promote intercultural/ international awareness and understanding (A-N)	3.75
5	To promote intercultural/ international awareness and understanding (A-N)	2.38	To promote national culture and values (P-N)	3.09	To promote national culture and values (P-N)	3.68
6	To meet the demands of your national economy (E-N)	2.36	To meet the demands of your national economy (E-N)	3.01	To promote regional collaboration and identity of Asia (P-R)	3.63
7	To promote regional collaboration and identity of Asia (P-R)	2.24	To promote regional collaboration and identity of Asia (P-R)	2.93	To meet the demands of your national economy (E-N)	3.53
8	To generate revenue for your own institution (E-I)	1.94	To meet the demands of global economy (E-G)	2.69	To generate revenue for your own institution (E-I)	3.39
9	To meet the demands of Asian regional economy (E-R)	1.89	To generate revenue for your own institution (E-I)	2.68	To meet the demands of Asian regional economy (E-R)	3.34
10	To meet the demands of global economy (E-G)	1.87	To promote global citizenship (P-G)	2.63	To meet the demands of global economy (E-G)	3.31
11	To promote global citizenship (P-G)	1.85	To meet the demands of Asian regional economy (E-R)	2.62	To promote global citizenship (P-G)	3.29

Source: JICA Survey.

Note: 4 = "Highly significant"; 3 = "fairly significant"; 2 = "moderately significant"; 1 = "slightly significant"; 0 = "not significant"; (A) = academic; (P) = political; (E) = economic; (G) = global; (R) = regional; (N) = national; (I) = institutional.

高等教育の使命

「国際的な展望をもって、市民としての覚知および社会への積極的参加を促す教育を提供するために、個人的な発達と社会的移動の機会、自分自身による能力構築を行う機会、さらに社会正義の文脈において、人権、持続的発展、民主主義および平和を確固たるものとして行く機会を提供する。」

「研究を通して知識を高め、創造し、普及し、ならびに地域社会へのサービスの一環として、社会科学、人文科学および創造的芸術における研究と同様に科学的小および技術的研究を推進し発展させることによって、文化的、社会的および経済的発展において社会を支援するための関連する専門知識を提供する。」

「文化的多元主義および多様性の観点から、国内、地域、世界および歴史的文化の理解、解釈、維持、強化、推進、および普及を支援する。」

持続可能な開発目標 (SDGs, 2015-30)



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

世界を変えるための17の目標



SDGsと高等教育

- ✪ 高等教育はSDG第4目標の一部であるだけでなく、17のSDG目標の全てで大きな役割を果たしうる。“SDGs are complex issues and require HEIs to undertake interdisciplinary and transdisciplinary action, fostering of epistemic dialogue and diverse ways of knowing, stronger presence in society through engagement with other actors” (UNESCO, 2022)





SDGsが、大学を、どのように助けるか？

- ・ SDGs関連教育に対する需要の増加
- ・ 包括的かつ世界的に受け入れられた責任ある大学についての定義を提供する
- ・ インパクトを実証するためのフレームワークを提供する新しい資金調達ストーリーを作成する
- ・ 新しい外部および内部パートナーとのコラボレーションをサポート

知識

学び

デモンストレーション

インパクト

協力

SDGsを、大学が、どのように助けるか？

- ・ SDGsに知識、技術革新、ソリューションを提供する
- ・ 現在および将来のSDGs実施人材を育成する
- ・ ガバナンス、運営、文化におけるSDGsのサポート、採用、実施方法のデモンストレーション
- ・ セクター間のリーダーシップを構築してSDGsの対応を導く



❖ 1. 研究

SDGs達成に貢献する知識の創造・イノベーションの推進

❖ 2. 教育

SDGs達成に貢献する人材の育成

❖ 3. 大学運営

組織ガバナンスへのSDGsの原則の活用

❖ 4. 社会連携

SDGs推進のための様々なアクターのプラットフォームの
推進役・パートナーとしての役割

- ❖ 1. SDGsの枠組みを用いることで、大学の社会的インパクトを政府・資金提供者、地域社会、国際社会に示すことができる。
- ❖ 2. 課題解決のための教育・研究への社会的ニーズを体系的に理解することができる。
- ❖ 3. 課題解決のための公的資金・民間資金へのアクセスを拡大することができる。
- ❖ 4. 課題解決のための内部・外部とのネットワーク・プラットフォームの形成においてイニシアチブをとることができる。
- ❖ 5. 大学運営において、SDGsの基準・方向性を活用することができる。

スタンフォード大学「スタンフォード・チャレンジ」

- 『課題の解決』『リーダー教育』『卓越性』を3つの柱にして、「ヒトの健康」「環境のサステナビリティ」「国際関係（平和と安全保障）」の3つの課題解決を目指して戦略を立案し、総額43億ドルを5年間で募る資金集めのキャンペーンを行った。結果、半年で23億ドルを集めた。→外部資金獲得の有効な手段としての国際化ミッションの設定

ケンブリッジ大学

- 「国際的に最高水準の教育・学習・研究を追求することを通じて、社会に貢献すること」→公費投入の正当化と外部資金獲得

イエール大学

- 「相互依存がますます高まる世界において、指導者あるいは世界の一員として貢献できるように、学生の素養と資質を高める。」
→グローバル人材の育成と貢献を前面に出して教育国際化を推進。

東京大学 「世界の公共性に奉仕する」

- ❁ 「東京大学が文化の多様性を尊重しながら、国籍、民族、言語、障害などのあらゆる境を超えた人類普遍の真理と真実を追究し、世界の平和と人類の福祉、人類と自然の共存、安全な環境の創造、諸地域の均衡のとれた持続的な発展、科学・技術の進歩、および文化の批判的継承と創造に、その教育研究を通じて貢献する」（東京大学憲章）。

◆スーパーグローバル大学創成支援事業の10年間で、 「Waseda Vision 150」の改革を加速し実現

早稲田大学のあるべき姿

早稲田大学教旨

「世界の学問に裨補せん事を期す」
「時世の進運に資せん事を期す」
「広く世界に活動す可き人格を養成せん事を期す」

建学の理念から
Waseda Vision 150 へ



Waseda Vision 150

- 世界に貢献する高い志と人間力・洞察力を持った
グローバルリーダーの育成
- 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する
独創的研究の推進
- 自律的に改革し続ける
アジアの大学モデルとなる進化する大学

早稲田大学 中長期計画
「Waseda Vision 150」

一体的に運用

スーパーグローバル大学創成支援
「Waseda Ocean 構想」

SGU事業期間



－ Waseda Vision 150 事業期間（2012～2032） －

大学国際化の理念を考えるための3つのC

前提：世界の高等教育は競争しながら協力し、協力しながら競争している。

❖ Competitiveness

－国際的な競争力のある個人と大学

❖ Cooperation

－多様性の中で、国際的に協力・連携できる個人と大学

❖ Contribution

－グローバル化の進展の中で、国際的な視点から社会に貢献できる個人と大学



引用数が上位10%に入る 論文数の国別ランキング

順位	2000～02年の 平均	20～22年の 平均
1	米 国	中 国
2	英 国	米 国
3	ドイツ	英 国
4	日 本	インド
5	フランス	ドイツ
6	カナダ	イタリア
7	イタリア	オーストラリア
8	中 国	カナダ
9	オランダ	韓 国
10	オーストラリア	フランス
11	スペイン	スペイン
12	スイス	イラン
13	スウェーデン	日 本
14	韓 国	オランダ
15	インド	サウジアラビア

13位に低下

※文部科学省 科学技術・学術政策研究所の資料を
基に作成

Global
Top 100
University

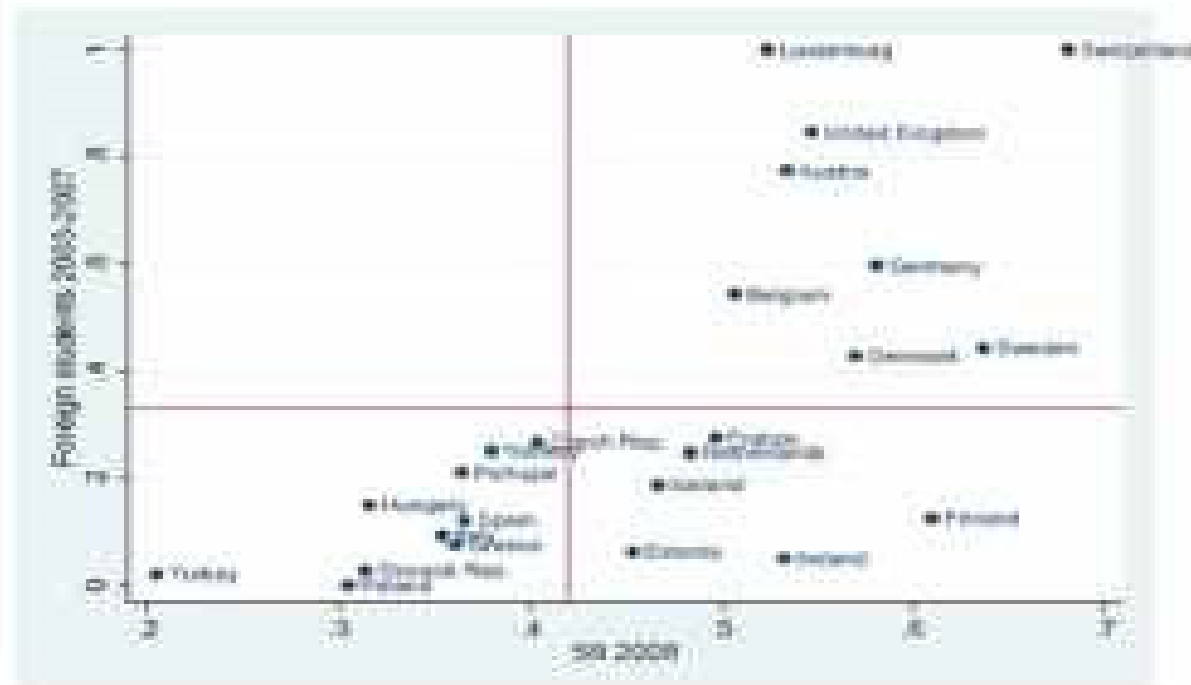


The University of
Nottingham

UNIVERSITY OF NOTTINGHAM

Link with innovation

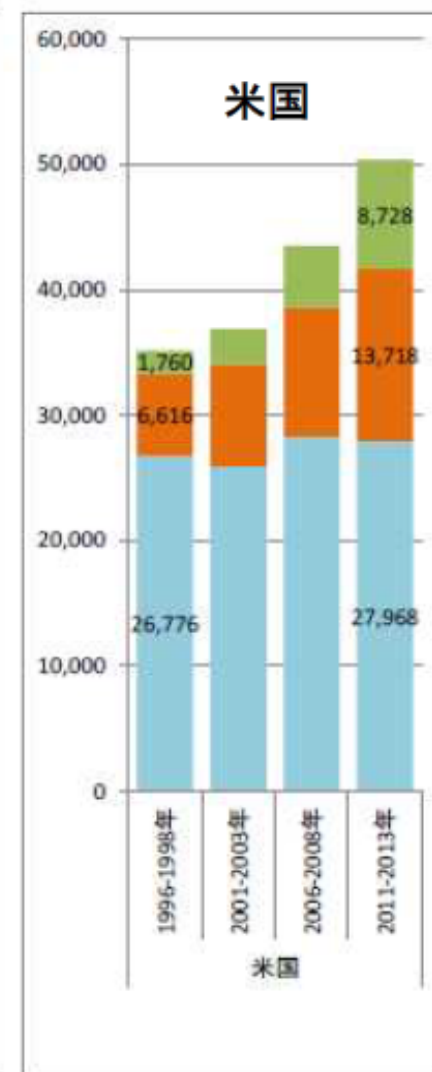
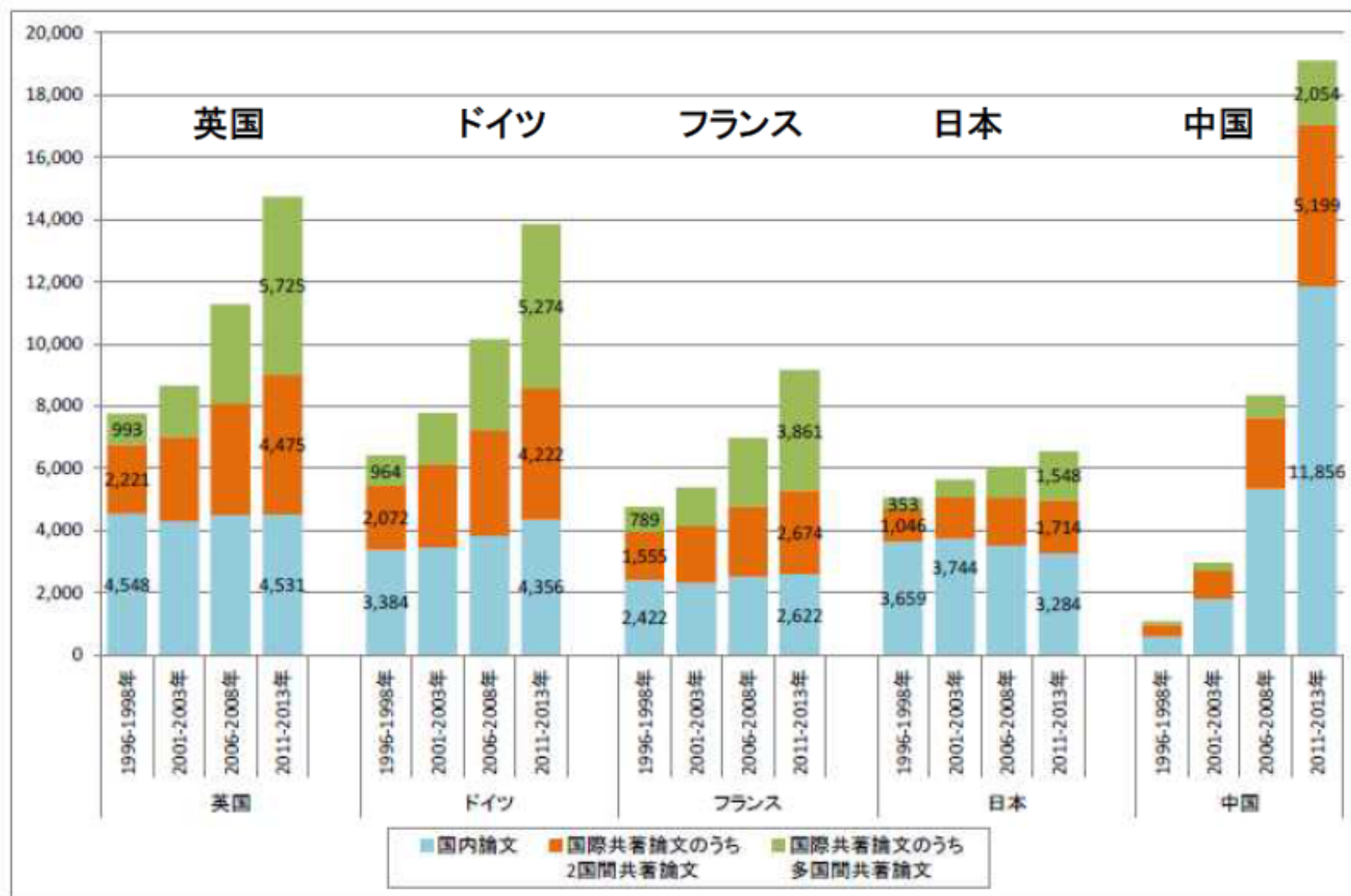
Graph 3 Scatterplot between the share of foreign students 2003-2007 and STI 2008, Level A, 32 countries



Correlation
between
foreign student
numbers and
innovation =
0.7.
Correlation
between
foreign
research
students and
innovation =
0.6

Source: Van Damme 2010

主要国のTOP10%論文における国際共著



出典: NISTEP 調査資料-239「科学研究のベンチマーキング2015ー論文分析でみる正解の研究活動の変化と日本の状況ー」(2015)

出典: 平成28年10月6日文部科学省科学技術・学術審議会国際戦略委員会における濱口道成JST理事長の発表資料

- ❖ 国益的視点と共に国際公益への貢献を目指した高等教育国際化を志向してほしい。
- ❖ 国際化による教育の質向上と共に、国際化による研究の競争力の向上を！
- ❖ 国際化により、日本の高等教育の国際「競争」力を高めるとともに、国際「協力」力を高めることが、その国際「貢献」力を高め、日本経済の起爆剤ともなる。



Thank you!

SGU採択校に対するアンケート ③

(3) 今後、さらに必要となる国の政策についての要望・期待

【SGUブランドの継承】

- 国際推進の拠点としての**SGUブランド形成、認定によるブランド力向上**
- SGUのレガシーを発展させるための引き続きの支援

【各種規制緩和等】

- 国際化を進める上で障壁となる制度の緩和**（設置基準、留学生定員管理・授業料等）
- 機関別認証評価の適合評価を受ける大学が、先進的取組推進できる仕組

【奨学金の充実】

- JASSO奨学金拡充,「トビタテ！留学JAPAN」等国の海外留学支援の充実
- 円安・物価高騰の影響に考慮した支援 ○JASSO奨学金の短期留学に対する支援の改善
- 理工学分野の外国人留学生への一貫（学部・大学院）した奨学金支援

【政府全体（省庁横断）による国際化の推進】

- 地域・社会のグローバル化推進と高度人材定着に向けた産業界への働きかけ**
→日本企業が就職活動時に高度な日本語を要するため外国人留学生は就職が困難。関係省庁と連携した企業・産業界等のグローバル化の推進が必要。
- 日本人の海外留学について**、留学後就職面で不利益を感じないような就職のタイミングや方法の工夫、日本の就職慣行（就職活動の開始が3年夏）の**経済界への働きかけを含めた改善**
→学生の海外留学を適切に評価する社会文化やシステムの構築（産官学金連携など）
- 外国人留学生・研究者の各種インフラ（例：銀行口座開設、病院等）を支える仕組や**国全体で外国人が快適に日本で生活できるための一層の環境整備**
→外国人留学生、特に英語話者の受入拡大は、地域・社会における英語通用度の向上、グローバル化にとっても必須。地域や社会で英語が通じる環境は留学生受入拡大の重要な施策。

SGU採択校に対するアンケート ③

(3) 今後、さらに必要となる国の政策についての要望・期待

【今後の大学の国際化に関する事業への要望】

- **地域・社会のグローバル人材の育成に貢献できる事業**
- 地元の自治体、教育機関、企業などと連携して、相互の強みを活かした共同事業を、大学が主導・牽引できるもの ○ 国際化の事業には、長期ビジョンと柔軟性の2つの要素が内包した設計
- 各地域の優れた特色を持つ大学に目を向け、支援するスキーム
- 優秀な人材の定住のための国際化を牽引する大学対象の国費枠や起業家向けビザ取得支援

【我が国全体の国際化を支える基盤の必要性】

- **「大学国際化促進フォーラム」における補助事業採択校のグッドプラクティスの横展開**
- SGU採択大学間のネットワーク強化とブランド力維持による日本の大学の魅力と国際通用性強化
- マイクロ・クレデンシャルの積極的促進 ○ 学習履歴・履修証明のデジタル化（デジタルバッジ）
- 外国人留学生に対する留学前後の日本語教育や日本文化の教育の強化・支援
- 日本留学試験（EJU）のオンライン受験を含めた日本留学の総合プラットフォーム
- 外国人留学生の受入に係る手続きのデジタル化等の推進 ○ JV-Campusの発展と推進

【教育環境の整備】

- **外国人留学生と国内学生が真の意味で切磋琢磨できる国際共修目標設定**
- 実留学をしない学生の国際教育環境整備
- 「オンラインを活用した国際協働学習」の実施状況を大学評価指標に入れる
- **国際教育交流は高度な国際業務が必要であることから専門職員育成を支援する施策**
- アドバスト・プレスメント（AP）のような仕組みを活用した単位付与の推進による優秀な外国人留学生の確保 ○ **海外分校の設置**

●国際交流・研究ネットワーク構築・拡大

○国際的なプレゼンスを高め、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現するためには、国際的なネットワークは極めて重要。

○「環太平洋大学の大学協会（APRU）」や日本とスウェーデンの国際学術コンソーシアム「MIRAI」のように国内から複数のSGU採択校が加盟するものから、各大学が独自の国際・研究ネットワークでアライアンスを組み、拡大するものまで多様な動きを見せる。

○アジアや北米・ヨーロッパとの連携だけでなく、アフリカや中南米地域等まで、地球規模での国際ネットワークへの加盟が進んでいる。

○国際交流・研究ネットワークの拡大の成果を表すジョイント・ディグリーについて、現在、我が国の大学は27大学が設置するところ、SGU採択校が21大学を占める。

○ダブル・ディグリーについても事業開始前（2013年度）から2019年の6年間で、SGU採択校で61件から235件と約4倍に増加。

●産学連携、地域連携の強化

○ステークホルダーとの多種多様な連携の中で、地域・社会のグローバル人材の育成や国際的な教育研究環境の高度化が期待される。

○各採択校が地域独自の視点で、特定の地域に偏ることなく、142自治体（延べ数）、2192（延べ数）機関との連携が見られた。

我が国の大学の国際化の促進に向けた今後の政策の方向性

● 更なる課題への対応

- 教職員の国際化対応力及び事務職員の高度化への取組を引き続き推進するとともに、国際業務の高い専門性を持つアドミニストレータ職をはじめとした専門職の育成・活用や、グローバルな視野をもって業務遂行ができる事務職員の登用のための支援
- 高度外国人材の獲得・定着（国内就職促進）に向け、外国語のみで卒業（修了）できるコースの増加にも対応した、外国人留学生に対する日本語教育の充実に向けた支援
- 多文化環境を活かした日本人と外国人の学生が真に学び合う学修活動（アクティブ・ラーニング等）の機会及び大学の国際化を通じた国際頭脳循環・国際共同研究を進める環境の更なる充実に向けた支援とこれを評価する仕組の構築

● 我が国の大学の更なる国際化を推進する政策

- 大学が地域の自治体や企業と連携し大学がハブとなり地域の国際化を牽引し、地域・社会のグローバル化を牽引する人材の育成や我が国にとって戦略的に重要な分野・成長分野等における大学のグローバル化の推進等、我が国の成長を支え、グローバル社会で活躍する人材育成を図る大学の国際化の強化

Activeness of cross-border activities in East Asia

Rank	Past		Present		Future	
	Cross-border activity	Mean	Cross-border activity	Mean	Cross-border activity	Mean
1	Outgoing mobility opportunities for faculty members (F)	2.36	International/ cross-border institutional agreement (I)	3.08	International/ cross-border institutional agreement (I)	3.75
2	International/ cross-border institutional agreement (I)	2.29	Outgoing mobility opportunities for faculty members (F)	2.98	Outgoing mobility opportunities for faculty members (F)	3.74
3	Cross-border research collaboration (F)	2.06	Outgoing mobility opportunities for students (S)	2.78	Outgoing mobility opportunities for students (S)	3.68
4	Acceptance of foreign students (S)	1.91	Acceptance of foreign students (S)	2.77	Acceptance of foreign students (S)	3.65
5	Outgoing mobility opportunities for students (S)	1.85	Cross-border research collaboration (F)	2.74	Cross-border research collaboration (F)	3.64
6	Recruitment of full-time foreign faculty members (F)	1.47	Recruitment of full-time foreign faculty members (F)	2.06	Cross-border collaborative degree programs (I)	3.09
7	Cross-border collaborative degree programs (I)	1.10	Cross-border collaborative degree programs (I)	1.87	Recruitment of full-time foreign faculty members (F)	3.04
8	Use of ICT for cross-border distance education (I)	1.10	Use of ICT for cross-border distance education (I)	1.80	Use of ICT for cross-border distance education (I)	2.95

Source: JICA Survey.

Note: "Highly active"; 3 = "fairly active"; 2 = "moderately active"; 1 = "slightly active"; 0 = "not active"; (I) = institution; (F) = faculty; (S) = student. The mean for both "cross-border collaborative degree programs" and "use of ICT for cross-border distance education" is 1.104348.

国際社会の中で高等教育国際化を見る理論的視角

相互依存論と知識外交論

❁ 相互依存論－平和アプローチの基

－Haas(1958), Deutsch(1957)

－ヨーロッパ統合の理論的支柱

－国際教育協力はデファクトで進展している政治・経済・文化・社会の国際的統合・グローバル化を加速し、国際的相互依存関係を促進する。

－機能的な協力の進展は、人の価値観を収斂させ、国際的統合を促進し、平和の実現の基となる(社会構成主義・多元的安全保障共同体論)。

❁ 知識外交論

－Knight(2019)

－知識外交を「国際的な教育研究活動と国際関係の相互的な強化のプロセス」として定義し、国際的な教育研究活動を、国際的な公益や調和の達成に資するものとし、一方で国際関係の安定や平和の達成は国際的な教育研究活動を促進するという両者の相互的な正の関係性として知識外交を説明。

国際社会の中で高等教育国際化を見る理論的視角 現実主義とソフトパワー論

❖ 現実主義

－国益増進のための高等教育国際化

❖ ソフトパワー論

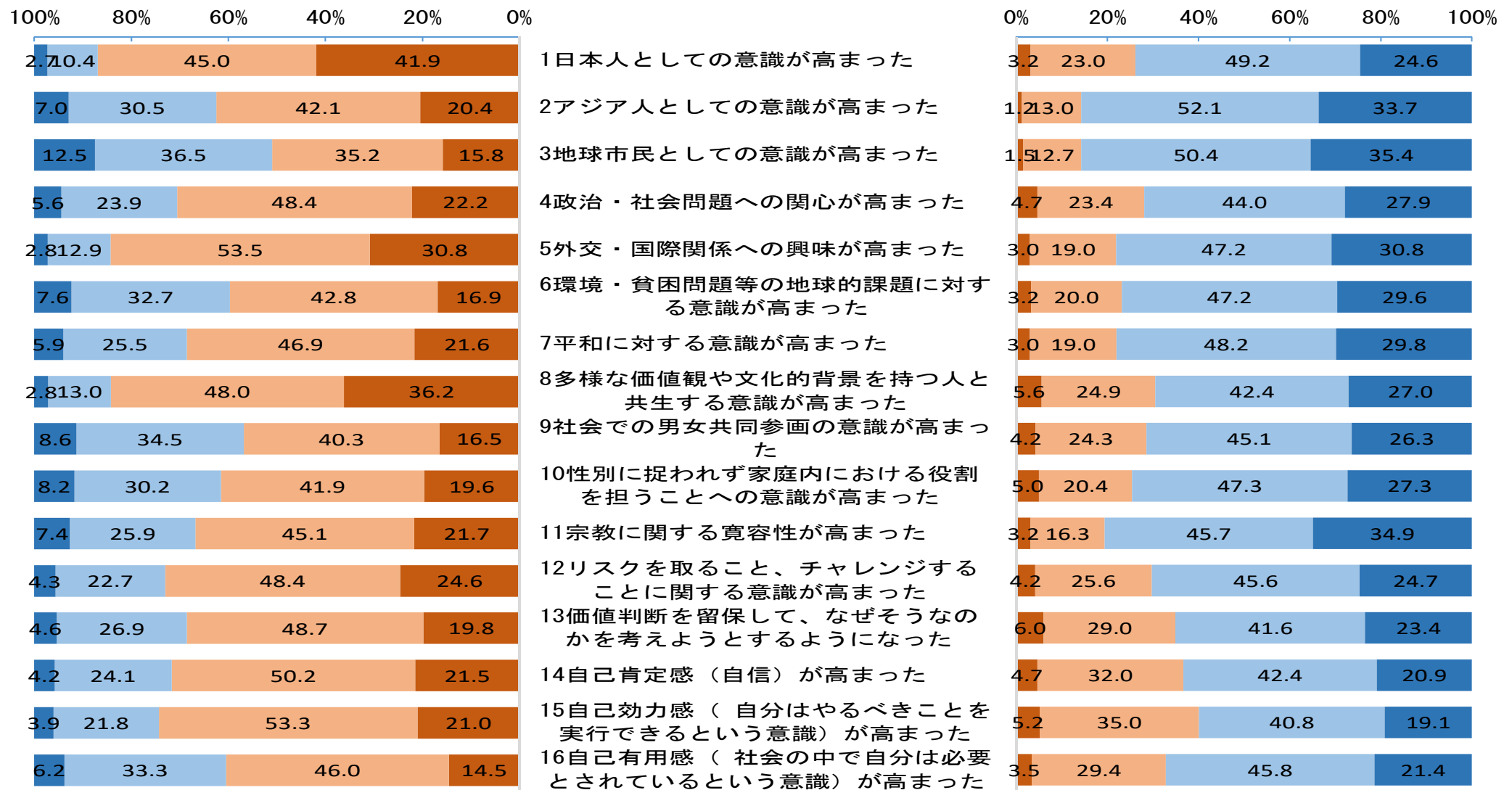
－Nye(2004)

－世界で最も多くの留学生をひきつける米国の高等教育

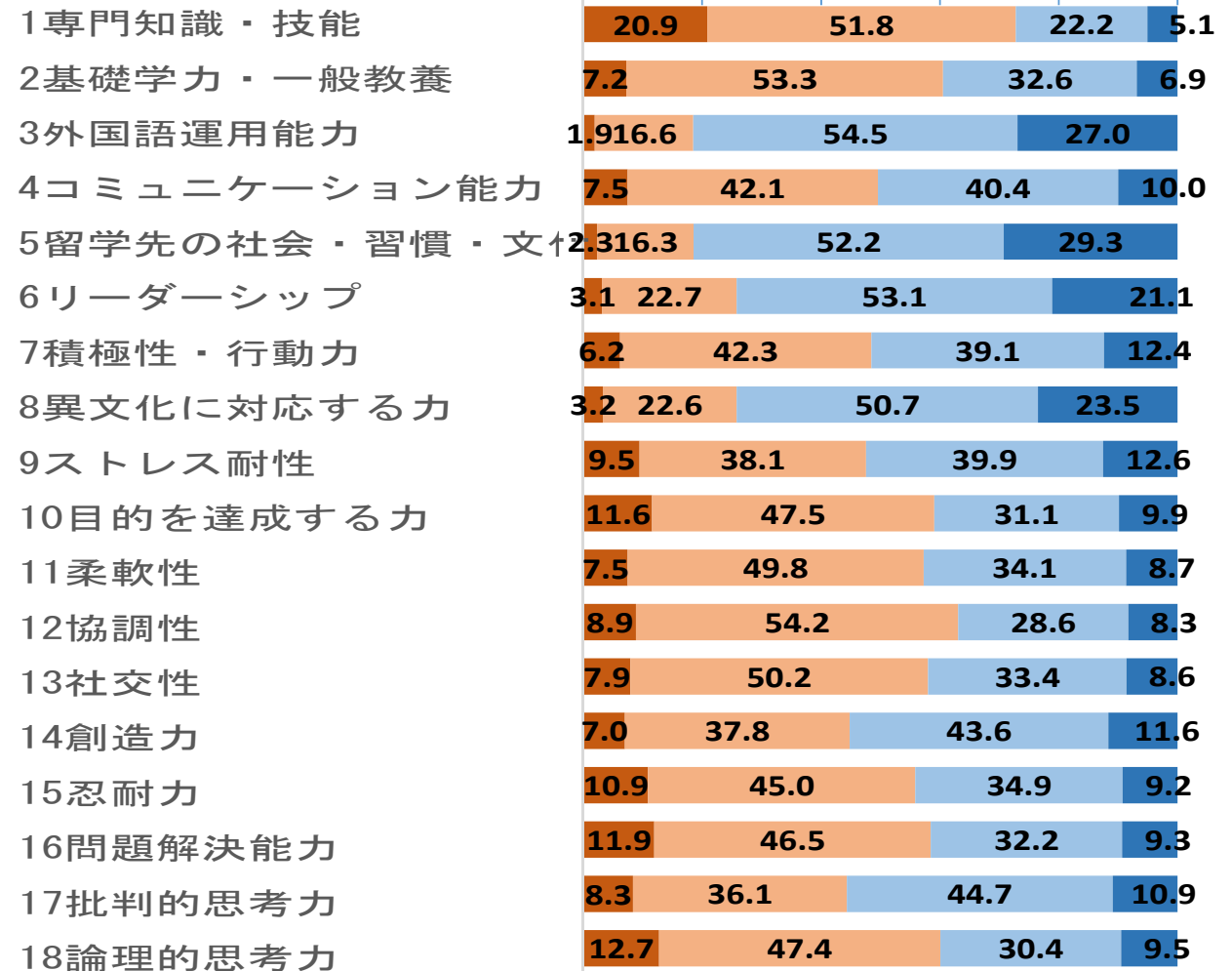
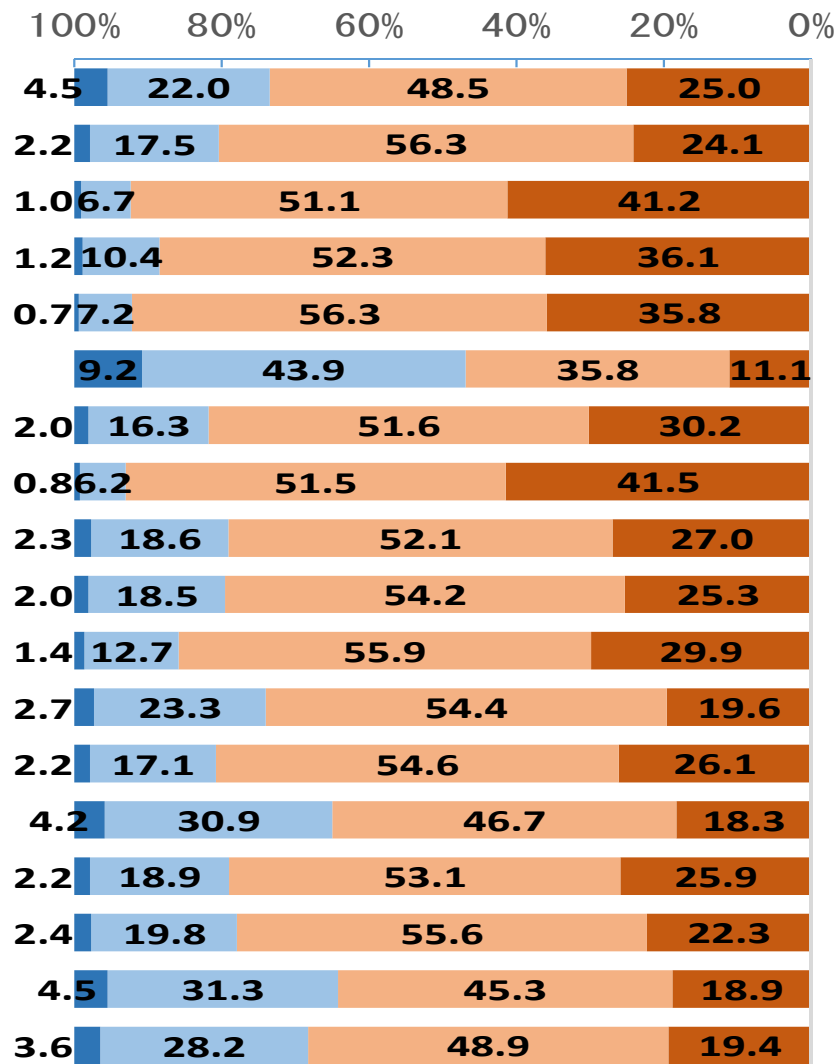
－孔子学院・ゲーティンスティテュート・アリアンスフランセーズ等のパブリックディプロマシー(広報文化外交)

－国際政治学の現実主義の立場から、国家の営みとしての国際的教育
機会の提供者の側の意図を一部説明

海外留学の結果(大学・(大学院)卒業(修了)の結果)、次のような意識がどの程度高まったと思いますか。(GJ5000調査 2016)



留学の結果(大学・大学院の学生生活で)、次のような能力が向上した と思いますか。(GJ5000調査 2016)



米中の共著相手国の変化

米中の共著相手国として、日本の相対的地位が年々低下している状況

工学分野^(※1)の当該国と相手国順位^(※2)と割合^(※3) TOP10%論文

<米国>

年次	日本との共著 (順位)	日本との共著 (割合)	1位	2位	3位	4位	5位
1996-1998	1位		日本	イギリス	ドイツ	カナダ	フランス
		10%	10%	10%	10%	10%	8%
2001-2003	3位		カナダ	ドイツ	日本	イギリス	フランス
		8%	10%	9%	8%	7%	7%
2006-2008	7位		中国	カナダ	韓国	イギリス	ドイツ
		7%	12%	10%	9%	9%	8%
2011-2013	8位		中国	韓国	ドイツ	イギリス	カナダ
		6%	27%	11%	9%	8%	7%
2013-2015	8位		中国	ドイツ	イギリス	韓国	カナダ
		5%	35%	9%	9%	8%	6%

<中国>

年次	日本との共著 (順位)	日本との共著 (割合)	1位	2位	3位	4位	5位
1996-1998	2位		米国	日本	イギリス	香港	カナダ
		14%	45%	14%	13%	13%	10%
2001-2003	3位		香港	米国	日本	イギリス	カナダ
		12%	30%	26%	12%	9%	6%
2006-2008	4位		米国	香港	イギリス	日本	カナダ
		9%	29%	20%	11%	9%	8%
2011-2013	5位		米国	香港	イギリス	オーストリア	日本
		7%	38%	12%	10%	10%	7%
2013-2015	7位		米国	オーストリア	イギリス	香港	シンガポール
		6%	39%	10%	10%	10%	7%

※1 工学分野: Scopus27分野をJSTで10分野に再編したもので、Scopus27分野の「Engineering」、「Chemical Engineering」の合算。

※2 相手国: 共著を整数カウント(上位5位迄) TOP10%ベース

※3 割合: (相手国との共著数(TOP10%))/(当該国の国際共著数 TOP10%ベース

大隈重信侯「東西文明の調和」

「今、日本は將に東西文明の接点に立って居る。吾人の大なる理想は文明の調和者として、東洋の文明と西洋高度の文明とを並行せしめ、調和せしむるにある。」

「東洋にはおのづから東洋の特徴あり。西洋にも亦同じく西洋の特徴あり、其の文明が孰れもそれぞれの特徴乃至長短を備えたものであるは云ふ迄もない。併し乍ら世界の大勢は今日最早東西文明の孤立又は東西思想の独存を許さず、彼我の交通接触益々頻繁親密を極めて、東西文明の統一又は調和を期せずして將に必然的に行はれんとして居る」1922年『東西文明之調和』

「いる。

→相互理解・対話を通じた平和の創造」を示唆

- 学生の国際移動（留学生の受け入れ・派遣）の急増－2000年に1.8百万人であった世界全体の留学生数が2007年には2.8百万人に（UNESCO 2010）。2025年には7.2百万人に達するという推計も。
 - 教職員の国際移動、外国人研究者・国際的経験を有する教員の雇用
 - 大学間協定の締結数の増加
 - 国際共同学位プログラムの発展
 - 海外キャンパスの設置増加
 - 国際共同研究の活発化
 - 教育内容・カリキュラムの国際化・英語化及び多言語化
 - 国際的ネットワーク・アライアンスへの参加
 - 国際的な高等教育システム・質保証制度の調和化
 - 地域的枠組みの興隆
 - ICTによる国境を越えた高等教育の提供⇒コロナ禍で急拡大
- Internationalization abroad, Internationalization at home



国際社会から見た高等教育国際化に関する様々な観点 平和のための高等教育国際化

- ❁ ユネスコ憲章前文「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」が原点⇒「地球市民性」の涵養
 - 伝統的な国際高等教育交流の理念
 - 文化・文明の対立が紛争の重要な原因になっている現状を考えると現代的な意味はさらに大きい。
 - フルブライト計画以来、米国大学の国際教育専門職意識の源となっている。

開発政策・競争力強化策としての高等教育国際化

- ❖ 人的資本論・近代化論を基礎
- ❖ 近代化・開発政策としての留学生派遣
 - ー明治期日本・多くの途上国が政策的努力
- ❖ 留学生の派遣だけではなく、受け入れが開発効果を生むという認識ーブレインゲイン政策
 - ヨーロッパの地域統合においても、経済的競争力確保のための人的資源戦略として高等教育国際化/域内流動性の振興が位置づけられてきた。

国際教育市場への対応としての高等教育国際化

- ❖ 世界的な国立大学の独立行政法人化・民営化・私立大学の増加・教育費の自己負担化（フルコスト政策）
 - ❖ 私費留学生の急増→国際的な教育市場の形成→留学生の顧客化→「輸出産業」としての留学生受け入れ（英・豪）
 - ❖ WTOでも教育サービス貿易の自由化が議論・FTAでも高等教育を対象としたものもある
- デファクトで進むグローバル化に対して、国際的高等教育市場の健全な形成のための制度整備（単位互換・質保証等）の必要性。

コスモポリタン大学モデル

- ⊙ 大学は「Universe」なものー普遍的な知の共同体
 - ⊙ 中世のボローニャ大学・パリ大学・オックスフォード大学等でのラテン語を共通語とした国際的な教育が原型
- 大学にとって留学生の受け入れや国際性は必然

国民国家大学モデル

- ⊙ 国民統合や国家的政策目標のための大学
 - ⊙ 後発国のベルリン大学や東京帝国大学が典型
 - ⊙ 植民支配から独立したアジア・アフリカ・ラテンアメリカの大学も国家を強く意識
- 留学生派遣や外国教員の招へいには積極的だが、留学生の受け入れには消極的

国際的国民国家大学モデル

- 近代国家の成熟による国際関係・国際化の重要性の認識
 - 大学の国際性とその国の学術の発展や対外的な政治的・文化的影響力の強化のためにも有用
- 国民国家のための大学の国際化を志向

グローバル大学モデル

- 人の国際移動の爆発的拡大、情報通信技術の長足の発展により、グローバルな国際高等教育市場が誕生
 - ー 留学生交流・国際共同教育プログラムの増大・MOOCs等
- 国境を越えた大学間競争の激化
 - ー 世界大学ランキングにより国際的疑似市場が誕生
- 世界的課題解決への志向
 - ー 学術研究における国際協働の重要性が増大

慶應義塾大学「事業計画の大綱」(2021年度事業計画)

1. 先端技術の高度化が急速に進む社会において、総合大学の強みを活かし、自然科学と人文・社会科学の連携によって、テクノロジーと人間の調和がとれた人類社会の実現に貢献する。

2. 国内外から多様な学生が集まる学塾を構築し、日本社会を支え、世界で活躍する多様な人材を育成する。

3. 慶應義塾の多様性を確保し、特色ある教育を実践するために、一貫教育の充実に努める。

4. 海外の優れた研究者の受け入れ、海外の大学・研究機関との共同研究、研究者間の交流を推進するために、施設・組織など研究体制の充実に努める。

...

7. 教育・研究・医療の成果を世界に発信し、義塾の国際的評価の向上を図るとともに、義塾の学問の伝統を継承しつつ、文化を創造・発信する拠点の整備に努める。

8. 学生、生徒、患者、教職員等の安全の確保とキャンパス環境の向上を図るため、施設の改修、建設などを計画的に進める。

9. 教育の自律性、研究の自由を守るために、自己資金の拡大、充実に努める。

10. 世界に蔓延する感染症や多発する自然災害などの状況を踏まえ、教育・研究・医療を通じて、地球規模の諸課題の解決に貢献する。

早稲田大学教旨

「早稲田大学は学問の独立を全うし 学問の活用を効し 模範国民を造就するを以て建学の本旨と為す」

一早稲田大学は学問の独立を本旨と為すを以て 之が自由討究を主とし常に独創の研鑽に力め以て 世界の学問に裨補せん事を期す

一早稲田大学は学問の活用を本旨と為すを以て 学理を学理として研究すると共に 之を實際に応用するの道を講し以て 時世の進運に資せん事を期す

一早稲田大学は模範国民の造就を本旨と為すを以て 個性を尊重し 身家を発達し 国家社会を利済し 併せて広く世界に活動す可き人格を養成せん事を期す

「一身一家一国の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負を持たねばならぬ」(大隈重信侯)→「世界的への貢献」を強く示唆

✪ Vision1.

世界に貢献する高い志を持った学生

✪ Vision2.

世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究

✪ Vision3.

グローバルリーダーとして社会を支える卒業生

✪ Vision4.

アジアの大学のモデルとなる進化する大学